

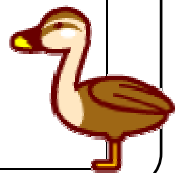
畜産とくつく情報

平成 22 年 7 月 8 日
(通算第 121 号)
問い合わせ先
長野県庁園芸畜産課
電話 026-235-7232

愛媛県でアイガモの ニューカッスル病が発生!

発生概要

6 月 22 日にアイガモ農法による稲作のため、60 羽のひなを導入
導入 7 日目～9 日目の 3 日間で、26 羽が死亡
残りのひなは殺処分済み、飼育場所の消毒実施済み
周辺の養鶏農家では異常なし
ひなはワクチンが行われていなかった
導入元の孵化場では異常なし



ニューカッスル病はウイルスによって起こる病気で、様々な鳥種に感染することが知られています。伝染力が強いこと、ウイルスのタイプによっては死亡率が高いことから、家きんにとって高病原性鳥インフルエンザに次いで重要な病気です。

感染経路

感染した鳥の鼻水、涙、排泄物に多量のウイルスが含まれています。他の農場(場所)への感染は、ウイルスを保有している鳥の導入、感染野鳥の侵入、汚染物あるいは人による持込などによって起こります。

症状

緑色の下痢便、奇声や開口呼吸などの呼吸器症状、脚の麻痺や首の捻転などの神経症状、死亡率の上昇

発生した場合の対応

発生した家きん舎の家きんは全て殺処分
同じ農場の家きん及び生産物は移動制限
原則として高病原性鳥インフルエンザのような周辺農場の移動制限はない

最近の発生状況		
平成 13 年	長野県他	鶏
平成 14 年	青森県他	鶏
平成 15 年	長野県	ハト
平成 16 年	福岡県	鶏
平成 17 年	福岡県	鶏
	宮城県	アヒル
平成 18 年	福岡県	鶏
平成 19 年	富山県	鶏
平成 20 年	沖縄県	鶏



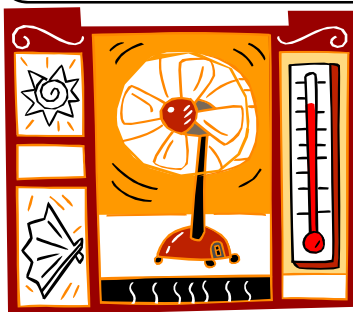
ワクチンによる予防対策を!

ニューカッスル病はワクチンで予防できます。ワクチン接種は、飲水投与、点眼投与、注射等様々な方法がありますので、詳しくは獣医師、家畜保健衛生所へご相談下さい。

対策や飼育鳥の異常等のご相談は下記へお願いします

佐久家畜保健衛生所	0267-62-4123	松本家畜保健衛生所	0263-47-3223
同上田支所	0268-23-1630	長野家畜保健衛生所	026-226-0923
伊那家畜保健衛生所	0265-72-2782	県庁園芸畜産課	026-235-7232
飯田家畜保健衛生所	0265-53-0439	(時間外)	026-232-0111
(時間外)	0265-23-1111		

家畜の暑熱対策。畜舎環境と飼養管理の両面から！



長期予報では、今年の夏は暑くなりそうです。家畜は体温が上がると採食量や受胎率が低下するなど暑さに弱いため、暑熱対策が必要です。

そこで、家畜の暑熱対策のポイントと簡易にできる畜種毎の対処方法を紹介します。

《畜舎環境対策》 …… 畜舎の温度を下げるために

畜舎の外回りの環境整備（片付け・草刈り等を行って風通しをよくします）をして、舎内に溜まった暑い空気を拡散させます。

家畜に直接送風・散水します。（ダクトファン・扇風機・細霧噴霧機等の利用）

西日が当たる側に樹木（植物）や遮光ネットを設置します。

畜舎へのスプリンクラー等での散水、寒冷紗の敷設、石灰等の屋根への塗布、等。

《飼養管理対策》 …… 採食量を下げないために

まず始めに、給与している飼料メニューと採食量のチェックをします。

家畜がエサをきちんと食べているか、冷たい新鮮な水が確保できているかを観察します。場合によっては、給餌時間や給与回数を変更します。

新鮮で高品質な飼料を給与し、ビタミン・ミネラルの補給も欠かせません。

乳用牛

- ・乳用牛は舎内温度が27度を超えると乳量が激減すると言われています。上記の対策の他にトンネル換気やリレー式換気を設置して、舎内の温度を下げるように努めます。
- ・粗飼料給与は、採食後の熱量発生の低減のため、早朝及び夜間に優先的に給与します。
- ・パドックや放牧地がある場合は、積極的に夜間活用します。

肉用牛

- ・肥育牛が採食している飼料はビタミンA含量が低いため、採食量が低下する場合は、ビタミンAを添加した飼料やハイキューブおよびルーサンなどの良質乾草を給与します。

養豚

- ・育成豚への給餌は、不断給餌から制限給餌への切り替えを行い、涼しい時間帯に一気に食べさせるようにします。

採卵鶏

- ・採卵鶏は舎内温度が35度を超えると熱死が多発するとされていますので注意してください。産卵率の低下を防ぐためには、配合飼料に重曹とビタミンCを添加すると暑熱ストレス緩和に効果があります。